

2026年度日系社会研修 コース概要

No	15
所管センター	九州
分野	医療・介護・高齢化対策
研修コース名	早期胃癌の内視鏡診断と治療
受入人数	5
受入時期	上半期
来日日	2026年7月15日（水）
帰国日	2026年8月21日（金）
提案団体	国立大学法人 九州大学
提案団体ウェブサイトアドレス	https://plaza.umin.ac.jp/imed/en/index.html
研修員必要資格	自国において医師であることは必須で、内視鏡経験が1年以上かつ年齢60歳以下が望ましい。経験年数は医学部卒業後2年以上かつ臨床経験2年以上が望ましい。
研修員に必要な実務経験年数	その他（必要資格欄に記載）
研修使用言語	英語
日本語能力（JLPT目安）	不問
英語能力	英語でのコミュニケーション可
研修目標	世界トップレベルの日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新機器を用いた早期胃癌の発見法と治療法を学ぶ
期待される成果（習得する技術）	・日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習熟できる ・次世代型トレーニングモデルや豚切除胃を用いた治療内視鏡のシミュレーション学習により、治療内視鏡の技術とコツを学ぶ ・帰国後の自国における具体的な活動計画を作成する ・インターネットを用いて日本と自国の遠隔医師教育講座を開催し、継続的な医療教育を行うことで自国における早期胃癌の診療レベル向上に寄与する
研修計画（内容）	1. 講義：最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 2. 見学：九州大学病院および関連施設における内視鏡検査の見学と討論 3. 実習：粘膜モデルやブタから切除した臓器を用いた内視鏡治療の実習 4. 学会参加：日本消化器内視鏡学会や日本消化器病学会を中心とした学会、研究会への参加 5. 発表：病院内で研修内容を発表
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	日本での研修を通じて、日本語を学びながら日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新の機器を用いた世界トップレベルの内視鏡診断法、治療法について学習することを目的とする。研修や日本人内視鏡専門医との議論を通じて技術や知識を習得し、帰国後は現地社会と日系社会との橋渡しとして両コミュニティへ充実した内視鏡診療を提供すると同時に自国の内視鏡診療の発展に努めることで、UHC達成に向けた裾野が広い医療人材育成に貢献する。すなわち、このプロジェクトで研修した医師は中南米における日系人はもちろん、すべての住民の健康寿命増進と生活の質向上に寄与できる。内視鏡機器は日本製品が世界シェアの80%以上を占めるため、日本製品の輸出振興への寄与も期待される。加えて、日本から内視鏡診断・治療に関する遠隔医療教育を併行して展開することで、継続的な能力向上体制が整備される。当院はこれまでJICAや厚労省などと協働して700名以上の海外医療スタッフを研修員として受け入れ、海外医療施設とは2000回以上の遠隔医療教育プログラムを実施している。中南米諸国とも年4回の頻度で内視鏡に関するテレカンファレンスを行っており、医療教育についてのノウハウは十分に有している。
応募希望者への特記事項	・宿舎は外国人研究員等宿泊施設（馬出）または九州大学病院までアクセスの良いホテルに宿泊の予定。外国人研究員等宿泊施設の立地・設備等についてはホームページ参照のこと（https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/cmn/teacher/accomodation/02馬出外国人研究員等宿泊施設概要および予約方法.pdf）